

『北方領土交流訪問記』

平成 28 年 9 月 15 日（木）から 19 日（月）の間、「独立行政法人北方領土問題対策協会」（北対協）が実施する「北方四島ビザ無し交流事業」に、「北方領土返還要求運動連絡協議会」（北連協）の加盟団体である公益社団法人全国自衛隊父兄会（全自父）の推薦を頂き、小野賢一香川県自衛隊父兄会副会長とともに参加する機会を得ました。

団員 62 名は、「北連協」加盟団体推薦者、国会議員等、交流専門家（陶芸・料理・庭園）、元島民、同行医師、内閣府・外務省・国土交通省職員、通訳、「北対協」事務局及び「北連協」事務局から構成されていました。

民間レベルでの相互理解を増進することが目的

今回の訪問事業は、9 月 2 日（金）に極東のウラジオストックで日露首脳会談が開催され、プーチン大統領の年末の日本公式訪問、「新しいアプローチ」での領土交渉の加速及びウラジオストックでの日露首脳会談の定例化が合意された直後に実施されました。

その観点から国後島、択捉島住民の日露首脳会談に対する評価や領土交渉に対する本音を伺い知れる貴重な機会となると期待されました。

一方、交流行事の実施や団員の発言・行動に対して、今後の領土交渉に悪い影響を与えないための一定の配慮が働き若干の緊張が感じられました。しかしながら、「日露両国間の平和条約締結問題が解決されるまでの間、ロシア人住民と積極的な交流や意見交換を行い、民間レベルでの相互理解の増進を図る」という本事業の目的は、各団員の親身な貢献と熱意により達成できたと思います。

交流訪問日程の概要

9 月 15 日（木）：結団式・事前研修会

夕刻根室港から本事業専用の旅客船「えとぴりか」で国後島に向けて出港し古釜布湾に停泊

9 月 16 日（金）：国後島訪問

「入域」手続き後に上陸、「南クリル」地区長表敬、古釜布墓地墓参、島内見学、夕食交流会等を実施。夕刻に択捉島に向けて出港し内岡湾に停泊

9 月 17 日（土）：悪天候により択捉島上陸を断念

9 月 18 日（日）：択捉島訪問

「入域」手続き後に上陸、「クリル」地区長表敬、紗那墓地墓参、文化交流行事（陶芸作り、日本庭園手入れ、島内施設見学）、ホームビジット、夕食交流会等を実施。前半夜に国後島に向けて内岡湾を出港

9 月 19 日（月）：早朝、国後島古釜布湾に到着し「出域」手続きを実施

その後、ロシア当局の臨検を受け古釜布沖で検査を受けている稚内のサンマ棒受け網漁船「第 8 朝洋丸」に「えとぴりか」から食料等を急遽届けるという場면을体験しました。じご根室港に向け出港、船内で解団式を実施し、13 時過ぎに根室港に接岸、「千島会館」に移動後解散となりました。

日露関係進展の期待と現実の狭間で感じたこと

今回北方四島交流訪問事業に小野香川県副会長とともに参加する機会を頂き、国後島、択捉島を訪問して各種プログラムを通じロシアによるインフラ整備が加速している北方領土の現状を知り、ロシア側住民と積極的に交流することが出来たことに感謝しています。

今回の訪問事業は、日露首脳会談開催直後の訪問でした。プーチン大統領の年末の日本公式訪問に向けて、国会では安倍総理が日露関係について、「戦後、70年以上たっても平和条約が締結されていない異常な状態に終止符を打たなければならない」と述べ、北方領土問題の進展に強い意欲を示しました。

まさに今回の訪問団は、日露関係の歴史的転換点に少しだけ関わることが出来たのかも知れないと思います。

私は今回の経験を活かし、引き続き北方領土返還の署名活動や防衛情報紙「おやぼと」による広報活動を通じて「全自父」会員の理解と支援の輪を広げ、地道に政府の外交交渉を後押ししていきたいと思います。そして一国民として今後の日露関係の行方を冷静に注視していきたいと思います。

全自父理事 宮下 寿広